

聖ノートルレダス女学院

2012年・AUG

登場人物

能天気 多恵（のうてんきたえ）

所 マキ

直美（なおみ）

麻音（あさね）

琴代（ことよ）

海

桃

千藤 葉子（せんどうようこ） 先生

脳トレドール1〜5号くわい

試験、それは、避けて通れない宿命。この芝居が、試験でお悩みのあなたに、重要な示唆を与えてくれるかも知れない（ウソ）。遠くでかすかに歌声が聞こえる。幕が開くと、そこはとある学校の教室。正面に黒板、もしくはホワイトボード。カレンダーやら、よく意味のわからないグラフなどを記した掲示物。そして、生徒用の机に椅子。ただし間違えても、上手に黒板と教卓。下手に整然と生徒用の机などという、まっとうな配置をしないこと。あくまでも自由に。奥には、○と△の組み合わせにより、男女トイレを表す表示のある二枚のパネルが見える。鞆から荷物を取り出しているマキ。バットを振っている琴代。一人机に座り、直美が歴史（かな）の教科書を開いている。傍らでは、手にしたストップウォッチでタイムを計測する海と桃。

直美 （とにかくもの凄いスピードで教科書を音読している）

マキ つかしーな、確か入れたはずなんだけど…。

桃 直美さん、フアイトです！

海 あと7行！

琴代 （バットを振りつつ）かっきーん！琴代選手打ちましたあ、これは大きい！

直美 声大きい。

桃 そこうるさい！

琴代 な、な？今のスイング、よかつたろ？

海 直美さんの気が散るでしょ。

直美 （大きく息を吸い、そしてゆっくり吐き出し）終わったわ。

桃 さすが直美さん。

海 只今の記録、五分四十八秒。

直美 これで、今回の試験範囲はすべて記憶したわ。やっぱり黙読よりも音読ね。「…

声大きいそこうるさい！」って、いらんことまで頭に入っちゃったじゃないの！

琴代 何っーか、風圧より、音が遅れて来るかんじ？

桃 バカだ…。

海 筋肉バカだ…。

直美 そんなの、物理的にあり得ない。明日は試験なのよ。少しは真面目に勉強し

たら…。

琴代 明日の試験より、今日の試験をどう乗り切るか、だろ。

マキ 遅れてくると言えば…。

直美 確かにそうね。

と、そこへドタドタと足音をたてて、トーストをくわえた麻音が駆け込んでくる。

麻音 ちいーす！

琴代 何だお前か。紛らわしい！

麻音 遅刻ギリギリにくわえトーストは鉄板なの！

マキ 誰もそんなこときいてないから。

麻音 だつてね、朝ご飯はちゃんと食べないと脳が働かないんだゾ。それよか、来た？

琴代 来てたら、麻音なんか相手にしないつて。

このあたりから、多恵があたりを見回しながらそおと教室内に入ってきて聞いている。

麻音 なあにい!? 新入りのくせに、私より遅いつて何? そんなけしからんヤツは、

こーして、こーして、こーだあ! (トーストをずたずたに引き裂き、まとめて口に押し込む) じゃ寝る。

琴代 寝るなー! しっかしそいつ、使い物になるのかね?

直美 そんなのが来たためしないでしょ。

桃 ないでしょ。

琴代 お前が言うな。

直美 (今度は理科の教科書を開きつつ) 何か文句でもある?

琴代 (ぶいーん) ま、どんなピッチャーが来ても、私がメツタ打ちにしてやるけどな!

多恵 ちよつと迷っただけなのに、何でこんな物騒な展開になつてるかな…。

マキ あんた誰よ?

多恵 あ、あの、私、今日からここに転校してきた能天気多恵とゆー…。

マキ 名前なんか興味ないし、今忙しいんだよ。

多恵 ごめんなさい…!

マキ 少し黙れつて。国語の教科書忘れたかもしんねーから探し中とかそんなんじやねーぞ。

多恵 あのー、よろしかったら、お近づきのしるしにこれ、お貸ししましょうか…?

マキ 何だそら?

多恵 だから、私、とりあえず新しいの全部持つてきてるし、初日だから忘れても何とかなるかなと。

マキ (多恵の差し出す教科書をひったくりつつ) そんなこと頼んでねーつての。

麻音 あー! あんたもしかして…!

海 直美さん、いました!

直美 それじゃあなたが今日から来るつていう…。

麻音 あんたね、新入りのくせに私より遅れてくるなんて、許せん!

琴代 能書きはいいから、勝負だ、転校生! 全力で来い!

多恵 お怒りはごもつともですが、すいません、緊張のあまり、ちよつと、トイレ!

赤いトイレ表示のパネル裏に駆け込む多恵。

麻音 あーあ、やっちゃったよあの新入り。

琴代 使えねー。

すぐまた飛び出してくる。

多恵 何でえ!? 何で男子トイレ…!?

警告音。続いて流れる軽快な音楽に乗って、5人(くらい)の脳トレドールズが登場する。

脳トレドールズ ♪脳は時たま間違える

都合のいいよに思いこみ 都合が悪いと重い腰

明日はシケン とつてもキケン 勉強しなきゃ でも

脳がNOと言っている 今日止せそうと叫んでる

「じゃあ明日になったらやんのかお前!」

脳に刺激を(BRAIN TRAIN)

夜はひじきを(BRAIN TRAIN)

鍛えて脳を活性化 そんな目標達成か?

(台詞) 聖ノートレダス女学院へようこそ!

脳トレドールズたち、とりあえず多恵の首にレイをかけたたり、胴上げしたりもみくちやにする。

ドール1 ちなみに、表示を見間違えたあなたには、マイナスポイントが与えられちゃいます!

脳トレドールズ、退場。

多恵 何? 今の何!?

琴代 そこ、良く見てみろつて。

多恵 えー、男子が赤で、女子が黒? てか、ここ女子校でしょ!

麻音 ありがちなトラップじゃん。

多恵 急いでんだからそんなのわかんないよ。てか、試験がどうしたとかさりげなくすごい重要な事言つてたよな…!

直美 明日の試験はともかく、さっそくやつてくれたわね。

海 くれちゃったわね。

琴代 試験より怖いものは危険球、字足らず。

多恵 問題外。

麻音 えー!? じゃやっぱ試験なの?

多恵 そんなことより、いきなりのマイナスはないよね。また給食が遠のくしい。

多恵 その重要じゃないの？

直美 普段から勉強してれば、試験なんてどつてことない。当然でしょ。

多恵 桃 それはまあ、おっしゃる通りかも知れませんが…、じゃあ、あの人たち一体何なの？

マキ あれが噂の脳トレ委員会。通称・脳トレドールズ。

多恵 脳トレ、ドールズ？

麻音 うわ、知らないで放り込まれたんだ、気の毒。

直美 彼らの活動は、本校の学校生活において全てに優先する。

海桃 時間割よりも、教師よりも。

琴代 そして、その試験をクリアできなければ、クラス全員にペナルティが与えられる。

直美 重要なのはそこ。つまり、あなたのマイナスは、みんなのマイナスってこと。

麻音 これでおかず一品はパーだし。あ、デザートだったらどうしてくれるのよ？

多恵 そんなこととは露知らず、ごめんなさい…。

琴代 わかったら、二度とへマすんじゃないよ！

葉子 それでは、じゅぎょうを始めます。

気づけば教卓の前に、葉子先生が立っている。

多恵 えー、いきなり始まんのか！

直美 ノートレダス女学院校則ほの1、「ノーチャイム、脳タイム」よ。

葉子 1時間目は国語ですよー。

多恵 あの、先生、ですよね？私、今日からなんですけど…。

葉子 担任の千藤葉子です。聞いてますよ、能天気さんね。じゃ座って。

多恵 座るって、どこにですか…？

麻音 だからあ、そこは、「あ、先生、言わずともわかってますよ、もうなれっここで

葉子 すから。私はその空いてる席ですね…。

多恵 くだらないジョークはさておき、能天気さんはその空いてる席に座ってください。

多恵 自己紹介とか、黒板にでっかく名前書いたりと、そゆのないんですか…？

多恵 いいから座りましょう。

多恵 はい…。あれ、これ何だろ…？

しぶしぶ葉子の指す席に座ろうとする多恵。机上に一枚のカードを発見する。何やら4桁の数字が三つ書いてある。

琴代 (のぞきこむ) もしや、奴らの置き土産か？

多恵 一一九二、一五九〇、一八六七…て、どゆこと？

琴代 一八六七、ってことは、栄光の二千本安打まであと百、ちよつと…。

直美 計算になってないし、最後の一つだけ見てどうするの？どれもよく聞く歴史の年号よ。頼朝が征夷大將軍に任ぜられた年、秀吉の全国統一、そして、徳川慶喜による大政奉還。

麻音 いいくにつくろう、あと知らん。

多恵 すごーい！何でわかるの？

葉子 そこ静かにしてください。今は国語ですよー。

琴代 それが一体どーしたつんだよ。

直美 これは、きつと私たちへの新たな挑戦なのよ。ここにきつと日本の歴史を揺るがす何か重要な意味が…。

マキ ただの足し算。

多恵 足し算って、あー！そゆことかあ。

麻音 計算早っ！

多恵 (手には携帯) 電卓でしたあ。この三つを足すとお、答えは四千六百四十九、つまり…。

直美 つまり？

麻音 まだわかんない？四六四九、よ、ろ、し、く。

琴代 「よろしく」って、ただのあいさつかよ！

直美 相変わらず手のこんだやり方なこと。

葉子 教科書を開いてください。あいさつがわりに、能天気さんに読んでもらいましょう。

多恵 あの先生、それが…。

多恵 どうしましたか？

多恵 実は、今日は、教科書を持ってきてなくて。初日だし、なくても大丈夫かな、なんて思っちゃったりなんかして…。

琴代 マジかよ…。

直美 あなたね、転校初日からいきなり忘れ物だなんて、何考えてるの？

多恵 もしかして私、またやらかした…？

派手な音楽と共に、脳トレドールズが登場して、パネルを動かし始める。葉子先生の姿はいつの間にか消えていること。

ヨ一コ (マイクを手に登場。ついでに、服装やら髪型やら派手に変わっている) さあみんな、楽しい脳トレタイムの始まりだよ！元気出していつてみよう！

多恵 あの人、さっきの先生だよね…？

直美 いいから聞きなさい。

海音 聞きなさい。

麻音 自分で招いたピンチなんだから、自分で何とかしてよね。

ヨ一コ 今からこの二枚のボードの間を、脳トレドールたちが走り抜けるよ。その服には何か文字が書いてあるから、それを読んで欲しいの。正解したら三十ポイント。

ントあげるから、よおく目を見開いて。まばたき厳禁だよ。がんばって！
ドール2 まずは、レベル3から！
ドール3 レディ、ゴー！

合図と共に、パネルの間を二人の脳トレドールが走り抜ける。

ヨーク わかったかな？（多恵をさし）そのあなた、答えをどうぞ！

多恵 早すぎてわかんないって…！

ヨーク さんねん！でもね、優しいお姉さんは、もう一回チャンスをあげちゃうよ。

脳トレドールたち、パネルとパネルの間隔を、少しだけあける。

ドール2 次は、レベル2！

ドール3 ここで正解したら、二十ポイントだよ。

ヨーク さあみんな、用意はいいかい？

多恵 ちよつと待つてよ…！

琴代 任せろ！百四十キロの速球をとらえるこの私の動体視力をもってすれば、こんなのだつてことないぜ！

ドール1 レディ、ゴー！

再び、二人の脳トレドールがパネルの間を走る。

琴代 見えた！

多恵 わかったの!?

琴代 ああ、確かに見た！…見たには見たが、肝心の、漢字が読めん！

麻音 だめだこりゃ…。

直美 だったら偉そうにしゃしゃり出て来ないでよ。ちよつとでも期待した私がバカだったわ。

桃 バカだった…。

琴代 だからよ、ちゃんと見えたんだつて…！こ、こう、なんかこんなかんじで…。

マキ 読めなきや意味ないって。

ヨーク あーあ、さんねーん。時間切れでーす！

ドールズ 正解は、「林檎」でしたあ！（ポーズ）

ドール4 これでまたマイナス十ポイント。

ドール5 累積でマイナス二十。このままだとデザートはお預けだよ。

ヨーク じゃあみんな、次こそがんばって！まったねー！

脳トレドールたち、リンゴをうまそうに食べながら去る。ヨークもいつの間にか消えている。

琴代 そ、そうか、あれで「りんご」だったか…。何か「木」が入ってるな！とは思ったんだ。てか、ムズクね？

直美 「檜」はともかく、「はやし」くらい読めなさいよ。

琴代 すまんすまん！何っ！か、速球に合わせて待つてたら遅いカーブが来て空振りしちった感じ？

マキ たとえがおかしいだろ。

直美 バカなだけでしょ。ルールもろくにわかってないんじゃないの？

琴代 ルール知らんとか言うなあ！ホームラン打ちや、そんなの関係ないんだよ！

麻音 マジすかあ…。デザート抜きはきつ過ぎるっす。やっぱ寝る。

多恵 誰ですか？授業中に居眠りなんてしているのは？

マキ ああ先生、さっきの人だよ…。？何か性格変わってるような…？

直美 ああ深く考えない。

海 なよ。

麻音 すみません、麻音はもう駄目です…。デザートのない給食なんて考えられま

せん…。麻音のごはんは、みんな食べてくれていいです、さようなら…。

葉子 起きなさい！毎晩毎晩夜更かししてるから昼間眠くなるんです。でないとチョコの刑ですからね！

黒板のチョークに手をかけるふりして、麻音の背後から首のあたりに腕を回して締め上げる葉子。

麻音 ぎ、ぎぶぎぶ…！

多恵 チョークつてそつち!?

麻音 授業はまだ始まったばかりです。しっかりしなさい！さつさと教科書を開く！

葉子 （しぶしぶ教科書を開く）はいはい、開きましたあ…。

麻音 「ハイ」は一回でいい！まったくあなたたちは、そんなだから、毎度毎度本校最低ポイントなんです。もっと気合を入れなさい！あら、直美さん、あなたはどうしたの？

直美 お言葉ですが先生、『平家物語』でしたら、すでに全文暗誦しています。えらそうに言うことでもないだろ。

マキ そうね、あなたのその能力は認めましょう、でも、暗記だけが、真の頭の良さではないことを、あなたは知る必要があるんじゃないかしらね。

琴代 （多恵に）お前も教科書ないならノートくらい取れって！

琴子 それ、何こそ話してるの？

葉子 あ、だから、「ノートくらい取れ」って、能天気さんにアドバイスを…。ノート、取れ…？

多恵 脳、トレ…、つて、まさか…!?

再び、派手な音楽と共に脳トレドールズがなだれこんでくる。そして、葉子は

消えていること。

ドール4 突然ですが、ここでもちよつと、楽しい脳トレの時間だよ！

麻音 えー、またあ！?

多恵 授業、ろくに進んでないじゃん！明日試験なのにそれでいいの!?

ドール3 (再び登場) 授業なんてあとあと！一に脳トレ、二に脳トレ、それがこの学園のルールだよ。みんなも知ってるはずだよな？

直美 また誰かさんが余計なこと言うから。

海 言うから。

琴代 私はただ、新入りがへましないように気を遣ってだな…。

麻音 それが余計だつーの。

直美 今度は、わかりもしないのに出しゃばって欲しくないものだわ。

多恵 ま、まーまー…。

琴代 だったら次は直美が何とかして見せるや！

直美 言われなくてもそうするつもりだけ。

ドール5 はいはい、仲間割れはそのぐらいにして、問題だよ！今度は、かんたんなのぞに挑戦してもらおうからね。この問題は、柔軟な発想と閃きが大切だよ！

ドールズ全員 体に良くない「のう」って、なあーに!?! (ポーズ)

多恵 え、何それ!?!

麻音 わかった！「ゲーム脳」だ！

ドール3 ぶー！あなたが言う通りアル過ぎてこわいよ。でも、不正解！もつとイメー

海 ジを膨らませて。頭を柔らかく使ってね！

麻音 えー、違うのお!?!

琴代 どうした直美、お前、まさか、わからないとか言うんじゃないだろうな？

直美 (顔面蒼白) え、えつと、か、体に良くない脳って、脳は人間にとつて最重要と言ってもいい器官なんだから、体に良くないなんてことが…。

海・桃 直美さん、頑張ってください！

この間、脳トレドールたちは、小声で「チツチツチツチツ…」と、時を刻んでいること。

直美 だから、ニワトリの脳とか…!?

ドール3 ぶー！そりゃあ三歩歩くと忘れちゃうかも知れないけど、ニワトリの脳だつて、ちゃんと働いているんだよ。まだまだ頭が固いなあ。

ドール1 正解は、せえの！

ドールズ全員 「ほうしゃのう」でした！

ドール3 なるほどお。これは明らかに体に良くないなあ。柔軟な発想も大事だけど、

最近のニュースをチェックしてれば、そう難しくない問題だったのに…。もつと心のアンテナを広げて。固い頭のあなたたちは、豆腐の角にアタマぶつけて

何とやら、だぞ。じゃ、まったねー！(退場)

ドール2 これでみなさんは、マイナス三十ポイント！

ドール3 このままだと、午後のお昼寝もなしになつちゃうよ！

脳トレドールズ、また疾風のように走り去る。

麻音 デザートはおるか、昼寝もなしって、何それ!?! かくなる上は、エネルギーを補給しなくては。麻音エナジー、スクランブル！緊急ドッキング、ゴー！(靴から栄養補助食品を取り出して食す)

琴代 直美 てめえ人のことさんさんコケにしといて、このザマかよ!?!

多恵 みんながんばって考えたんだし、うまくいかないことだつて…。

琴代 がんばればそれでいいのか？打率より打点、得点という結果を出してこそ真の強打者だろ！

直美 頭が固いですつて…!?! (いきなり額をごつんと机にたたきつける)

桃 直美さん、何を…!?!

多恵 あ、あの、大丈夫ですか…？

直美 痛いに決まってるでしよ！固くなんかない！お宅のお嬢さんは、記憶力には秀でていますが、想像力や表現力はイマイチですよねつて、余計なお世話よ！

マキ 誰もそこまで言つてないつての。

直美 (がばとノートを広げて書き出す) 「体に良くないのは放射能」「体に良くないのは放射能」覚えておかなくちや…!?

マキ そーゆー問題じゃなくね？

海 直美さんが壊れたあ！

桃 しつかりしてください！

多恵 何もそこまで思い詰めなくても…。

麻音 そうだ！お昼寝がダメなら、今寝ればいいんだ！(がば)

葉子 (手にした定規で麻音の背を叩く) そんなことが許されると思っているの!?! 起きなさい！

多恵 また一段とテンション上がってるー！

葉子 何だか心の底から元気が湧いてきたわよ。ドーパミンが脳内を駆けめぐることの感じ、最っ高。私のこのいでたちを見たらもうおわかりよね、二時間目は、英語ですよ！

多恵 数学じゃないの?てか、国語、何もやってないのに…!?! それより何より、英語もあの人がやんの？

多恵 ノンノンノン。in English please.

麻音 はあ？

葉子 Are you English teacher?

多恵 イエース！ Im English teacher.

麻音 英語教師だつてき。

多恵 わかるんだ？

麻音 任せなさい。こう見えても麻音は、英語だけは得意なのだ。海外のサイト見たりもするから。

琴代 どうせゲームサイトだろ。

麻音 ゲームをバカにするな。今や世界の文化なんだぞ。

葉子 はい、そこ、私語は慎む！今日のテーマは、「疑問文」ですよ。何事にも疑問を持ち、探究することは、脳にとってもいいのですからね。では、さつそく問題です。次の日本語を、英語に直してごらんなさい（板書しながら）。「あなたは、列車を知っていますか？」

麻音 そんなの簡単じゃん。Do you know train?

葉子 もう一回大きな声で、なおかつジャパニーズイングリッシュ風に、へたつびに！

麻音 (首をかしげつつも) どう、ゆー、のー、とれいん？

葉子 のう、とれ、いん？

麻音 そんなのずるい！完全にひっかけじゃん！

多恵 もしかしてまたあれ!?

すでにおわかりと思うが、気づいた時にはすでに葉子はいない。そして、派手な音楽と共に、またまた脳トレドールたちが登場する。

ドール4 そんなに私たちに会いたいなら、また遊んであげるよ！

麻音 誰も会いたくないなんて思っていない！

琴代 アホか、お前は。大人しく居眠りしてりや良かったのによ。

ヨ一コ (登場) その気持ちに免じて、今回は一発逆転の大チャンス！

ドール5 ここで正解すれば、何と、五十ポイントサービスするよ！

ヨ一コ そのかわり、ちよっと難しいよ。次の問題は、間違い探し！今からドールたちが思い思いのポーズをとるから、十秒間で隅から隅までよく記憶してね！一瞬の暗転の後、どこかが微妙に変わっているから、変わったところを見つけね。この問題は、集中力と記憶力がカギを握るよ。問題、スタート！

閉じていたパネルが開くとそこに脳トレドールズ。思い思いのポーズ(大胆にね)をとっている。

ヨ一コ 五、四、三、二、一！はい、そこまで！

短い暗転。すぐまた明るくなるが、特に変わったところはない。

ヨ一コ さあ、君たちには違いがわかるかな？

琴代 簡単だ、そこに麻音が寝ている！

ヨ一コ ぶー！てか、プレイヤーが脳トレフィールドに入るのは反則だぞ。

マキ 何やってんだか。

麻音 ごめん、ゆうべあんま寝てないもんで暗くなったらついあつちの世界に…。
琴代 どうすんだよ、さつぱりわかんねーぞ…!

無情にもパネルが閉じて(まー両端の二人で動かすんだけど)、ドールズたちの姿を隠す。

ヨ一コ あーあ、時間切れ。いつまでも見せるとドールたちが疲れちゃうからね。
多恵 お願い！も一回だけ、チャンスをちょうだい…!

ヨ一コ 別にいいけどお、次で正解できなかったら、マイナス百ポイント、学校中のトイレ掃除だよ。

麻音 そんなのやだ！

琴代 何か秘策でもあるのかよ？

多恵 何となく見てもだめ。向こうは五人。だから、それぞれが、誰か一人に絞ってそこだけしっかり覚えるのよ。それだったら何とか。

麻音 なるほど。

マキ また寝ちまうんじゃないのか？

琴代 そう言うお前だって、毎度毎度いるのかいないのかわかんないくらい参加してないだろ！

マキ するせーな。参加してないように見えて、実は参加してるってことだってあるだろ！

麻音 麻音、今度は寝ないもん！

多恵 ここで私たちが争ってどうするのよ！

琴代 …やってみる価値はある、か。だったら私は真ん中のヤツを。直美、お前も

わかってんだらうな？

直美 体に良くない「のう」は…。

琴代 だー、まだそれ続いたのかよ!?

多恵 いつまで引きずってるのよ。しっかりして！今は、あなたの力が必要なの。

ヨ一コ 何をこそそそやってるのかな？お姉さん待ちくたびれてきちゃった…。問題、行っちゃおっかなー。

直美 私が、必要…？

多恵 だから、しっかり顔を上げて、右端の子だけをよおく見てて。今はぼつとしてる場合じゃない。大切なのは、

マキ 力を、合わせることで、てか…？

直美 …(小さくうなづく)

海・桃 じゃ私たちは残りの一人を。

ヨ一コ それじゃあ行くよ。念のため言っとくけど、これがラストチャンス。次はもうないからね！パネル、オープン！

再び、脳トレドールズたち(ポーズはさつきと変わっていい)。食い入るように見つめる多恵たち。運命の十秒間が過ぎる。そして、短い暗転。すぐまた明

麻音 ントもありだな、うん！
(慌ててかけこんでくる) トーストだけじゃ栄養が偏るので、今日からは、バナナと牛乳にしました。いったきまーす！

多麻音 (もぐもぐ) やっぱ来ないじゃん。

多麻音 ううん、来るよ、きつと。だって最後に下の名前教えてくれたじゃない。

イントロ。脳トレドールズの歌う校歌が聞こえる。葉子先生が入ってくる。

葉子 さつそくだけど、テストを始めるわよ！答案用紙が欲しい人は、取りにいらっしやーい！

葉子の前に殺到する一同。紙を受け取るとすぐまた席に戻る。最後の一枚を後ろから現れて抜き取るのは、マキである。

多マキ マキ…！

多マキ お、おう…。

多マキ あいさつは、相手の目をちゃんと見て！

多マキ こ、こうか…？

多マキ 正面から！

多マキ ぎこちなーい。

多マキ ちよつとあんたら、勝手に立ち歩くのはやめなさい！

多マキ いいからいいから。

多恵の回りに集まる一同。整理。二番は全員で合唱します。葉子先生には指揮をやってもらおうかなと。

全多恵 本日はどうも！
全多恵 ありがとうございます！

一同、礼。

おちまい

ノートレダス女学院 校歌

一、心地よい眠り 爽やかな目覚め

脳にいい一日の 始まりだ

朝ごはんを食べよう たくさん食べよう

緑の若葉 樋口は一葉 側頭 後頭 前頭葉

脳トレだよ 脳トレだね ノートレダス女学院

二、揺るぎない自信 響き合うところ

脳にいい毎日よ いつまでも

お昼寝をしましょう 二十分眠ろう

ピンクの桜 記憶は宝 海馬に 脳梁 扁桃腺

脳トレだよ 脳トレだね ノートレダス女学院

友と見た 真っ赤な夕陽 実際はそれほど赤くは

なかったかも知れないね

だけど 私にとっては 最高の夕陽

夜ごはんを作ろう たくさん笑おう

意欲の泉 知識の扉 我らの学舎 そこにある

脳トレだよ 脳トレだね ノートレダス女学院